

科目ナンバリング		G-LAS10 80021 SJ34												
授業科目名 <英訳>		統計学の哲学 Philosophy of statistics					担当者所属 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳					
群		大学院横断教育科目群			分野(分類)		人文社会科学系			使用言語		日本語		
旧群		単位数		2単位		週コマ数		1コマ		授業形態		演習（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期		2024・後期		曜時限		水2			配当学年		大学院生		対象学生 全学向	
(文学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)														
[授業の概要・目的]														
「データを証拠に変える装置」としての統計学は、今日の科学において特権的な役割を担っている。しかしそれだけでなく、帰納推論への形式的アプローチとして見た場合、統計学はヒューム以来の哲学的問題に対する様々な示唆を含んでいる。本授業では、現代統計学を支える数理的枠組みを概観した後、ベイズ統計や古典検定理論を始めとした種々の統計学的手法と、そのもとにある哲学的思想を明らかにする。とりわけ、それらの統計的手法と、現代認識論における内在主義と外在主義とをそれぞれ比較し結びつけることで、統計学と哲学的認識論の関係性を浮かび上がらせる。														
[到達目標]														
- ベイズ統計・検定理論など、現代統計学の基本的なアイデアを理解する - 正当化の概念や内在主義・外在主義など、現代認識論の基本的なアイデアを理解する - 現代統計学のもとにある哲学的思想や問題を理解する - 哲学的問題に対する現代統計学の含意を理解する														
[授業計画と内容]														
1. オリエンテーション 2. なぜ哲学／統計学は統計学／哲学の問題になるのか（序章） 3. 確率モデルと統計モデル 4. 意味論・認識論入門 5. 主観的確率解釈 6. ベイズ統計の基礎 7. ベイズ統計の認識論的問題 8. 頻度的確率解釈 9. 古典統計の基礎 10. 古典統計の認識論的問題 11. モデル適合と予測 12. モデル選択の基礎 13. AICと認識論的プラグマティズム 14. まとめ 15. フィードバック（授業なし）														
[履修要件]														
特になし														
-----統計学の哲学(2)へ続く↓↓↓-----														

統計学の哲学(2)

[成績評価の方法・観点]

- 授業コメント 20%
- 小課題2回 20%
- 期末レポート 60%

[教科書]

大塚淳 『統計学を哲学する』（名古屋大学出版会）ISBN:4815810036

（関連URL）

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学修（予習・復習）等]

- 復習：前回授業範囲でわからなかったところ、気になったところをリストアップする
- 予習：毎回、指定された教科書の範囲を読み、質問や気になったところをリストアップする
- 毎週授業日前日までに、コメントシートに質問・コメントを書き込む

[その他（オフィスアワー等）]

- オフィスアワー：火2限
- 授業サイト：<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>